

## 令和2年度社会福祉法人ひらか福祉会事業報告

### 1. 社会福祉法人ひらか福祉会

法人本部及びケアプランセンターかがり火も会計区分を単独としてより細かく経営状況を把握できるようになり、本部体制も整ってきた。

既存施設の運営においては、あやめ苑では前年度より収入増となり、収支差額においても前年度比246%の伸びとなった。全体としても収入が109%増加、収支差額は3271万円の収益があった。

今後は放課後等デイサービスの需要がさらに伸びている状況であり、キッズスポーツファインの早期開設に向けて取り組んでいきたい。

### 2. 特別養護老人ホームあやめ苑・ショートステイあやめ苑

「職員満足」を第一に働きやすさと仕事のやりがいの充実を基本方針に、次の重点課題に取り組んできた。

『やりたいことができるユニット運営』については、主任・リーダーに権限を与え、「考え」「任せて」「やらせてみる」ことにチャレンジしてきた。職員自ら考え行動する機会が増え、それぞれの「ユニットらしさ」を運営で表現し始めてきたように感じる。また、特養・ショートの相談員が中心となって常に現場連携を取り合ってきたことで情報共有もできた。今後も仕事へのやりがいを醸成するために、継続して職員個々が「自分らしさ」を発揮できるよう体制づくりをしていきたい。

『SNSを使った情報発信と地域との交流』については、LINEやインスタグラムに取り組んだことで、利用者家族など特定の対象から不特定多数の人へあやめ苑の活動を情報発信した。あわせてオンライン面会にも対応できるよう、横手市の助成金も活用し、無線環境も整えた。このコロナ禍でイベント等が縮小する中、実際に地域の方と交流する機会が減少したが、こういう時だからこそ今できる交流の仕方を模索し、地域の方々と関わりを持った情報発信ができるような活動をしていきたい。

『設備老朽化への対応』としては、助成金を活用したナースコールの整備を検討したがうまく進めることができなかつたため来期仕切り直しすることにした。コロナ禍での支援策を活用し、集中管理されていたエアコンを新たに分散設置した。これにより換気状況の改善とリスクの分散ができた。水回り設備の修繕は優先順位を付けて実施し、来期にも共有スペースの修繕を予定している。

最重要課題である『職員満足』は、法人理念であるとおりに職員個々が「自分らしく」行動することですべての問題解決に結びつき、向上するものとする。明

るく、楽しく、チームワークと行動力を持って来期の課題に取り組んでいく。

#### 【稼働率目標と実績】

・特別養護老人ホームあやめ苑（29床） 目標）95.00%／実績）93.13%

今年度は過去にないほど入院や退所が続き、昨年度と打って変わり1ヶ月しか満床にできなかった。また、入所申請後すぐに他施設への入所が決まったり、申請していても入所につながらなかったりと地域の状況の変化も感じた。

・ショートステイあやめ苑（14床） 目標）95.00%／実績）96.20%

長期利用の方は多かったが、キャンセル待ちや特養の空床利用など早期の穴埋めにつながられた。新規利用者も増え、年の1/3は稼働率が100%オーバーとなった。

#### 3. ショートステイかがり火

今年度の稼働率は月別で見ると、大きく動いているのは10月～12月にかけて、特に12月は85%以下と大きく下がった。原因として長期利用者の月後半からの特養等への入所と寒暖の差による入院等が続き、稼働率の低迷へとつながった。しかし、それ以外が93%以上であり、平均すると昨年度とほぼ同じ稼働率で推移していた。

今年度は昨年度同様に地域のいろいろな研修や会議に参加する予定を立てたものの、コロナウイルス感染症によりほぼ中止となり残念だった。

また、昨年度と同じく接遇に力を入れた事により、利用者様へ継続してより意識した丁寧な対応を心掛ける様子が見られていた。

以前より課題となっている利用者の忘れ物であるが、職員が意識的に忘れ物について確認を行っている事や、用紙等の変更により昨年度よりも減っている。しかし、現在行っている忘れ物の対策や感染症対策、事故予防への意識継続が必要であると各委員会より年度反省があり、引き続き来年度の課題となった。

企業主導型保育園(kagaribi kidz)と色々な行事を昨年度は合同で行うことが出来ていたが今年度は0歳児が大半を占めていた為、合同行事を行う事が難しかったが、年明けからは子どもたちがショートへ遊びに来る事も増え、利用者様と触れ合い笑顔も増えていた。

#### 稼働率目標と実績（定員30名）

目標 年間稼働率 95% (1日平均 28.5人)

実績 年間稼働率 92.08% (1日平均 27.64人)

#### 4. ケアプランセンターかがり火

今年度は4人体制で居宅介護支援事業を行っている。また、医療重度の利用者様や単独独居の利用者様、困難事例と言われる利用者様の引き受けを行い、家で

の看取りを行ったケースも増えてきている。住宅改修等の依頼も増え、介護以外の業種との連携もとれるようになり、ケアマネとしてのスキルも向上してきたと自負している。3月に特定事業所加算Ⅲの申請を行うことができた。来年度は特定事業所加算を取得することに伴い、365日営業を行い、全員で同じように対応できるようにスキル向上を目指すと共に、何時でも立ち寄り相談しやすい事業を目指し、関係機関や他居宅・地域との連携・連絡体制をさらに強化して行きたい。

#### 5. 企業内保育園 kagaribi kidz (かがり火キッズ)

今年度は職員の子どもよりも地域の子どもが多い運営となった。年齢層は下がり0歳児が利用児童の半数を占め、以降～2歳児までで9割を占めていた。この為ショートとの合同行事や地域との交流は、コロナウイルス感染症の影響もあり、昨年度に比べて格段に少なくなった。年明け以降は歩ける子どもも増え、ショートへ遊びに(走りに)来ることも多くなり利用者と交流を行う事が出来た。今年度より職員に対する処遇改善加算Ⅰの申請も行い、支給することができた。また、職員枠を使える連携企業として2社契約を行い企業枠でのりようとなっている。

今年度の課題として連携企業を増やし、安定的に児童の確保をしていくために、今年度同様に地域の子どもの入所に向けて、一時保育利用の子どものすそ野を広げていく必要がある。一時保育から入所児童へ移行する子どもも多くいるため、入所・一時に関わらず同じように対応を行い、新年度に向けて取り組んでいきたい。

#### 6. AKITA トレーニングセンター

開業して2年目となり、デイサービスの人数も徐々に増え、昨年度83名から、今年度は117名まで増加している。また、取引している居宅事業所も増え、見学や体験等の依頼も増えている。利用者の人数の増加に伴い、稼働率も昨年度は41.93%だったものが、今年度は67.61%まで上昇した。各居宅事業所への営業を継続的にできたこと、見学や体験時の対応の際、元気に明るく丁寧な接客を心掛け、各職員が徹底して行えたことが契約することにつながったと思われる。各職員が徹底し心掛けたことで、当施設の接客がアピールポイントとなり利用者の増加につながったと思われる。また、利用者の口コミによる見学・体験・契約も増えた。トレーニングを継続的に受けている利用者様からは「歩くのが良くなった」「痛みが少なくなった」との発言も聞かれ、好評をいただいている。

新型コロナウイルスの流行に伴う当施設の影響としては、利用を自粛する利用者様が数名程度いたが、感染対策マニュアルをもとに、施設内や送迎車の消

毒・除菌の徹底、SNSや掲示物等での感染対策の情報発信を行ったことで、大きな影響なく経過している。地域への参加は、感染症対策の面から積極的な参加はできなかった。新型コロナウイルスの流行の状況を見ながら出来る範囲で地域参加していきたい。

今後も、利用者様にさらに満足していただけるように、ケア接客・感染予防対策の徹底、トレーニング内容の検討、SNSでの情報発信を引き続き行っていきたいと思う。

目標と実績 目標) 契約人数 120人 実績) 契約人数 117人

#### 7. 放課後等デイサービスキッズスポーツ

今年度は昨年よりも年間平均で稼働率が増加し現在は23名のお子さんが利用されている。小学校1年生から高校3年生までおり、学校別には横手南中学校1名、旭小学校5名、南小学校1名、北小学校5名、支援学校9名と多く、遠くは雄物川小学校2名のお子さんが利用されている。

日々の療育では、毎日元気にダンス、長縄跳び等に取り組んだ他、コロナウイルス感染予防対策を実施し、土曜日の外出支援では、公園、体育館、ウォータースライダー、スノーパーク等の施設へ出掛け、地域の子供たちとも交流を深めることができた。

また、コロナウイルスの影響でなかなか地域との接点が持ちにくかったが、少しでも地域の役に立ちたいと子供達から提案があり、施設周辺のゴミ拾いを取り組んだ。子ども自ら社会貢献活動に興味を持ってもらえたことに、大きな成長を感じた。

そして、行事では、運動会、お楽しみ会、卒業式をはじめ、今年度初めて卒業生を送り出すことができた。

その他、キッズの子供たちの成長と活動状況を積極的にかつタイムリーにSNSで発信をした。

そして職員もチーム一丸となり、子供たちの笑顔や成長に寄り添いながら一人ひとり違った子供の特性に合わせて取り組んでいる。

目標 90% 実績 87.8%